

聖答云、略中 雙六盤ノ長サ一尺二寸廣サ七寸二分也、長一尺二寸ハ十二月ヲ顯ス、廣七寸二分ハ七十二日ノ土用ヲ表ス、白ノ十五ハ白月十五日、黒ノ十五ハ黒月十五日也、二ノ籤ハ日月筒ハ須彌山ヲ表ス、一六ノ目ハ六度萬行ヲマナブ、五二ノ目ハ二佛並座ノ佛ノ五位ノ修行ヲ明シ、三四ノ目ハ三身如來ノ四弘誓願ヲ表ス、亦人ノ内ハ我春、我内人ノ春、我前ハ人ノ夏、人ノ前ハ我夏、人ノソトハ我秋、我ソトハ人ノ秋、人ノ内ハ人ノ冬、我内ハ我冬也、春種ヲ出テ、夏田島ヲ作テ秋取マトメテ冬内收由表ル也、是皆三十佛井ノ變身、慈悲衆生濟度ノ方便、三十番神深キ意ノ利益ノ姿也、是井心ノ種子ニアラズヤ、

〔年中行事秘抄三月〕三日曲水宴事

天平二年三月三日、行幸松原宮、豐樂五位以上賜雙六局、又喚文人作詩、

〔看聞日記〕永享六年四月七日、抑雙六盤新造盤始、有廻打、人數予、崇光後南御方、東御方、御乳人、前宰相、

源宰相三位重賢等打懸物各茶一袋出、源宰相打勝、取掛物茶丸有盃酌、

〔おほうみのはし〕元和の御時、沈の御すごろく盤を人の奉りけるが、其盤ありがたき香ありければ、きらせ給ひて、うへの人々に給はせけり、たが里とぞ名付させ給ひける、とはましものを梅がかにと、いふ歌のこゝろばへなるべし、

〔大江俊光記〕貞享二年二月廿日、お六祝言道具、昨晚今晚ニ遣、

貝桶一荷、略中 雙六盤一箱、略下

〔好色一代男四〕因果の關守

暮れての物憂さ、明けての淋しさ、塵紙にて細工に雙六の盤を拵へ、二六五三と乞目を打つ中にも、そこを切れといふ、切るの字心に懸けるも可笑し、戸口をしめて出さぬといふは、なほ嫌ふ事あり、